

# 令和4年度第1回スポーツ団体組織統合検討会議 議事録

日 時：令和4年7月15日 13時30分～14時40分

場 所：駅前交流プラザよろーな会議室4

<出席者>

	団体名	役職	氏名
1	名寄市 Nスポーツコミッション	市長 会長	加藤 剛士
2		総合政策部長	石橋 毅
3		スポーツ・合宿推進課長	松澤 大介
4			渡辺 知也
5	名寄市体育協会	会長	吉田 肇
6		副会長	国府 壮
7		専務理事	石川 孝夫
8		事務局長	安澤 豊
9	風連町スポーツ協会	会長	日根野 正敏
10		理事長	菊池 慎二
11		事務局長	明石 裕
10	Nスポーツコミッション	副会長	遠藤 貴広

## 1. あいさつ

### (1) 名寄市長 加藤 剛士

日頃より両協会にはそれぞれの立場で地域のスポーツ振興、事業の推進に多大なるお力添えいただき感謝申し上げます。

名寄市では冬季スポーツ拠点化、スポーツ通じたまちづくりを市の地域政策の柱となる総合計画、総合戦略に掲げ、取り組みを進めてきている。

昨今スポーツは健康づくりだけではなく、地域コミュニティを担っていると感じている。また、子供たちのアスリート力の育成が地域の活性化や知名度向上、地域愛の醸成につながり、地域施策にとってスポーツは今まで以上に重要な位置づけになっている。

この会議では、名寄市民が将来にわたり、健康で豊かな生活が送られるよう、持続可能で、より良い運動・スポーツ環境が提供できる、そしてスポーツ団体組織の在り方を、一つずつ丁寧に積み上げていきながら再構築・再検討できる会議になればと考えている。

この地域にあった新しいスポーツの可能性、組織の在り方について忌憚のないご意見をいただきたい。

### (2) 一般財団法人名寄市体育協会 会長 吉田 肇 様

名寄市民にはスポーツを通じてこの地域での生活を楽しくしてもらえれば良いと考えている。

両協会には長い歴史があり、加盟団体にもそれぞれ長い歴史がある。新組織で協力し、更に発展していきたい。

### (3) 風連町スポーツ協会 会長 日根野 正 敏 様

当初、風連町スポーツ協会では現状の組織のままでいいという考えがあったが、人口減少、少子高齢化などを考え、新しい組織で連携し、より発展させていきたいという意見にまとまっている。

風連地区の期待を裏切らないように新組織がより良い組織となるよう皆様のご協力をいただきながら進めていきたい。

### (4) N スポーツコミッション 副会長 遠 藤 貴 広 様

フィンランド・ボカティでは、スポーツを核として観光、大学などの研究施設と連携し、生み出したお金を街に還元するということをやっていた。

現代では少子化によりスポーツができる環境がないことや、部活動では指導者がいないという現状がある。

自分自身当たり前のように子供の時からスポーツができていた環境を未来の名寄市の子供たちに残していきたいと考えている。

## 2. 自己紹介（名寄体協→風連スポ協→N スポ→名寄市）

## 3. 協議事項

### (1) 組織統合素案の説明 資料1

### (2) 今後の会議の進め方 資料2

### (3) 意見交換

#### ①現時点における事業運営の課題

競技団体に関すること、ジュニア育成 健康づくり スポーツイベントなど

#### ②組織統合する場合における各組織の課題など

- ・(吉田会長) 組織統合後、体育協会法人職員4名の保障対応をしていただきたい。
- ・(石川専務理事) N スポーツコミッション設立から3年経つが、市民に理解されていないのではないか。  
実際に取り組んできた事業を教えてください。
- (事務局) N スポーツコミッションでは、3つの柱で事業を展開。青少年育事業ではジュニアスポーツアカデミーや今年からは下の世代を対象にNスポキッズを開設。それぞれ月2回程度トレーニングをしている。また、市立病院に協力いただきメディカルチェックやスポーツ医科学関連のセミナーを行っている。健康福祉事業ではポッチャ大会やノルディックウォーキング、N スポ健康ステーションを定期的に開催。地域経済活性化事業については、モニターツアーとしてバックカントリー等に取り組んでいる。合宿誘致については、各競技団体と連絡調整をしながら事業を進めている。そのほか令和3年度については地域資源スポーツ交流イノベーション事業として主に食に関する事業を行った。
- ・(石川専務理事) 国が提唱している市外からの誘客を目指した大会誘致やスポーツツーリズムなどには取り

組んでいないのか。市民対象がほとんどなのか。

- (事務局) 現在のところ市のスポーツ振興を目的とした事業が多くなっている。ツーリズム事業については、旅行業の資格を取得しないと扱えない部分がある。将来的には、旅行業の資格取得、または人材の雇用などによりツーリズム事業も推進していきたい。
- ・ (石川専務理事) 組織統合についてはどのように考えているのか。まず両協会を統合するのか。
  - (事務局) 今後の検討会議で事業の進め方をベースに法人の在り方や法人格など地域にあった組織について考えていきたい。
- ・ (石川専務理事) 現状のところ体育協会の解散は法律上の理由がない。法人同士の合併は認められている。Nスポーツコミッションが先に法人化していただかないと解散できない。
  - (事務局) 理解している。検討会議には専門家の先生にも出席していただき、協議していく。
- ・ (明石事務局長) 風連協会では加盟団体に対し、活動に対する助成、大会参加に対する補助をしている。新組織でも加盟団体の活動支援を継続してほしい。
  - (市長) 提案したものは暫定的な素案である。非営利部門については行政が担う分野だと考えているため、一定の資源の投資は必要だと思っているが、できれば限られたお金のなかで循環させていきたい。最終的に営利部門で稼いだものを非営利部門に還元していく好循環がこの組織の狙いになるかと考えている。
- ・ (明石事務局長) 新組織での業務量増加に伴う職員体制はどう考えているのか。新たな職員の採用など考えているのか。
  - (市長) Nスポーツコミッションの事務局は市が担っている。市職員の派遣が必要であれば、柔軟に対応したいと考えている。また、新たに専門的な人材の配置も考えられる。
- ・ (安澤事務局長) 収益事業が確定していくまでの財政的な支援はどう考えているのか。
  - (市長) 一部公共的な部分を担っていただくことになるため、一定の投資は続けていく。
- ・ (市長) 大会誘致や冬季スポーツ政策はスキー連盟に頼っている部分がある。もっと地域で支えていく必要があると考えている。あるいは、この組織で一定のお金をもらって運営し、他のスポーツ施策に循環できれば、他団体への波及につながる可能性もある。
- ・ (石川専務理事) 競技団体は高齢化している。大会を誘致するのは現実的に厳しく、個人に負担がかかる。この組織で大会・イベントの協力ができればいいと考えている。
  - (事務局) 軽井沢クラブでは、100名程度のイベントスタッフを地域の民間企業に依頼していた。大会運営の担い手として新組織が確立されれば、競技間を超えたスタッフの派遣など可能かもしれない。このような取り組みについても検討していきたい。
- ・ (遠藤副会長) 農協青年部には若手が多くいるので、冬の農閑期など大会運営の力になれると思っている。
- ・ (日根野会長) 代表者会議の位置づけは何なのか。承認機関なのか。
  - (事務局) 今後、明確にする。
- ・ (事務局) 今後の検討会議は、Nスポーツコミッションが事務局となり、会議についてもNスポーツコミッションが主催し開催する。事前に事務局が情報収集、聞き取りに伺うこともある。ご対応願いたい。